

第22号

発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所
 霊亀山 九島禅院
 〒550 大阪市西区本町3丁目4-18
 ☎06-583-2725
 発行人 住職 奥田啓知 (智證)

大馬鹿門に門句あり

ソクラテスを生んだかも？

「平成の大馬鹿門（へいせいのおおばかもん）」と書けば、ご存じの方もあると思います。マスコミでも話題になった仏教大学（京都市北区）正門の門柱をめぐる騒動のことです。

香川県庵治町在住の彫刻家の空（そら）充秋さんが今年の三月、浄土宗系の仏教大学に御影石でできた門柱一对を寄贈されました。正門の両脇に建てられ五月七日に除幕式も済まされました。ところが、門柱の一つに作者が「平成の大馬鹿門」と刻字していたことから、大学当局が猛反発。「馬鹿という字には宗教的観念が読み取れず、教育機関にはふさわしくない」と刻字の削除を求めたところ、作者の空さんも頑として譲らず、撤去されることになりました。

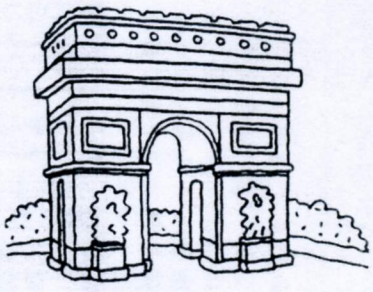
空さんによると、「人間、馬鹿に徹して己を知るということもあるし、実ほど頭をたれる稲穂かなで、「たとえ学問をきわめて智者となっても阿弥陀仏を信じ、ひたすら己は無知愚鈍であることを自覚せよ」という法然上人の遺愚（げんぐ）によせ

て命名した」とのことでした。馬鹿の語源については諸説紛々ですが、この騒動の原因は、馬鹿と阿呆の地域差にあるように思われます。東京とは逆で、大阪では「阿呆」と言われてもあまり腹を立てません。しかし「馬鹿」と言われると、喧嘩になってしまいます。関西人の「馬鹿」は、相手に対する挑発と受け取られるからです。大学関係者は、作者の意を解さず「大馬鹿」の文字にとらわれて反発されたのでしょうか。確かに一般的には「馬鹿」とは、馬と鹿を間違えるような愚か者を意味します。その意味では、大学側の処置も共感できるものですが、ギリシャの哲学者ソクラテスはアテネの街頭で青年たちに問答をふきかけ、彼ら自身に無知を自覚させ、相携えて真の認識に到達しようと努めました。ソクラテスのモットーは「グノーティ・サウトン（汝自身を知れ！）」でした。この言葉はデルフォイの神殿の門に掲げられていた警句でした。「身の程を知れ！」という意味で「神殿の門

から先は神の聖域で、お前たち人間は、これから中では偉そうにするな、神を敬え」という意味でしたが、ソクラテスは「身の程」という言葉を文字通りに「自己自身」と読んだのでした。そして「自己自身を知れ！」と命をかけて青年たちに説いてもらったのでした。

仏教でも「自灯明・法灯明」とお釈迦さまも説かれているように、世間の常識を捨てて、自分を価値の基準にしなさい、灯明となるべき「自己」を確立せよと同じことなのです。臨済禅師も「一無位の真人」と説き、真実の自己をみつけなさいと修行僧を指導しています。

今回の「平成の大馬鹿門」の文言も、デルフォイの神殿の門に掲げられた「グノーティ・サウトン（汝自身を知れ！）」のように、平成のソクラテスを育てたかもしれない。残念なことです。



大阪にオリンピックを！
 九条に中華街を！
 二十一世紀まであと三年！

